

安来高校植物図鑑（2020年7月）

和名：ノボロギク（野檻樓菊）

明治時代の初めごろヨーロッパから渡来ました。適応力が強く、世界中のあちこちで咲いているそうです。先端の黄色い部分を見て「これは蕾かな？」とってしまうのですが、これでも咲いている状態で、筒状花といいます。花びらはありません。花が終わるとタンポポのような綿毛をつけるのですが、これがぼろ切れに見えることから「檻樓(ぼろ)を着た野に生える菊」という名前がつけました。



和名：トウバナ（塔花）

茎に対し花が輪状につき、それが何層にも重なることから「塔の花」という名前をもらったようです。花が咲き進むと塔のように伸びていきます。しかし、そんなに背が高いわけでもなく、左の写真の実物は5 cm程度でしょうか。花がとても小さいので、よく観察しないと花であることに気付かないかもしれません。唇形花と呼ばれる形をしており、花を正面から見ると唇のような形をしています。シソ科の仲間です。確かにシソの花に似ているように感じます。これとよく似た花にイヌトウバナがありますが、イヌトウバナは山地で秋に咲くので、現在安来高校に咲いているのはトウバナであると考えられます。



和名：コケオトギリ（苔弟切）

苔のように小さい弟切草(オトギリソウ)という意味です。オトギリソウの名は、この草を秘薬として使っていた鷹飼いが、秘密を洩らした弟を斬った、という伝説に基づいているそうです。コケオトギリにそっくりな花にヒメオトギリがありますが、ヒメオトギリはおしべが10~20本程度あるそうなので、安来高校に咲いているのはコケオトギリだと思われます。写真を撮った日は雨が降っており花びらに水滴が付いていますが、梅雨を感じさせ風情があるのでと思います、そのまま載せました。



和名：ノゲシ（野芥子、野罌粟）



7月に掲載するのは時期外れだったかも。春から初夏にかけて咲く花です。ケシという名前ですがケシの仲間ではなく、キク科の植物で、ケシに似ているのは葉っぱだけだそうです。ノゲシとそっくりなオニノゲシという花がありますが、葉に鋭い刺があり荒々しい感じがする(鬼のようである)ところや、葉の基部(付け根)の違いなどで見分けられます。成長すると1 m程度の背の高さになりますが、安来高校では背の低い個体をたくさん見かけます。ちなみにオニノゲシは、安来高校で数年前に2個体ほど確認したことがありますが、現在は見かけません。